平成八年三月一日発行（毎月一日一回発行）

經濟論叢

第157巻　第3号

哀　辞

故島恭彦名誉教授遺影および略歴

金融的ヒエラルキーと過剰金融……本山美彦　1

寡占市場における組合化の効果：
　産業別 vs 企業別組合……石黒真吾　20

中小企業の存立・成長と研究開発……蘇　顯揚　33

芸術支援政策の財政問題（1）……金武　創　51

追憶文

島恭彦先生の業績を偲ぶ……宮本憲一　67

弔辞……廣田司朗　71

島ゼミナールの思い出……横田　茂　73

平成8年3月

京都大學經濟學會

経済論叢（京都大学）第157巻第3号，1996年3月

弔　　辞

廣　田　司　朗

9月28日の夕刻，同僚の横田茂さんから先生御他界の連絡をうけました。二日前にお見舞いに参りました私には，あまりにも唐突な報せでございました。今，深い悲しみと重く空しい心をもって，私は先生にお別れの御挨拶を申し上げなければなりません。

私がはじめて先生にお会いして御指導をお願い申し上げたのは，1948年の春でございました。それ以来，ほぼ50年近くの歳月が経過致しました。戦後50年と申しますが，その間はげしい変転の時代を通じて，先生は，研究者として，教育者として，さらにまた時代の先端を切り拓く思想と運動の担い手として活躍なさいました。

先生の果たされた偉大なそしてまた輝かしいお仕事につきましては，今更私が申し上げる必要もないところでございます。私とほぼ同じ世代の門下生の何人かはすでに世を去りましたが，数多くの門下生の方々は，現在，学界は申すに及ばず，社会のさまざまの分野の第一線で活躍されております。このことが，先生の幅ひろい御指導，御薫陶の賜物に他ならないことは，申すまでもございません。

先生はまた，学問に対するきびしい姿勢とともに，そのあたたかいお人柄をとおして，私たちを導いて下さいました。学問に対するきびしさとともに，それに劣らず，あたたかい先生のお人柄が，私にはつよく印象に残っております。微醺を帯びられて，八高時代のボート部の部歌やハイドンのセレナードを口ずさまれたお姿，幼少の頃のお嬢さんの手をひかれて農学部近くのグラウンドを散歩されたお姿は，今もはっきりと私の記憶の中にございます。先生のあたたかいお人柄は，頂戴しましたスケッチや退官後にお書きになった数々のエッセイからも，今もなお感じとらせていただいております。

出来ますことならば，悠悠自適の余生をさらにお続けになり，滋味あふれる見識を私たちにお示しいただきたかったというのは，誰しもが抱く願いでございます。しかしもはや叶わぬ願いとなってしまいました。残念と申すほかございません。

先生，長年にわたって私たちを御指導下さいましてありがとうございました。そしてまた御苦労様でございました。安らかにお眠りいただきたいと存じますが，同時にまた

私たちをお見守り下さいますようお願い申し上げまして，お別れの言葉と致したいと存じます。